

こんにちは 日本共産党県議団です

長野市で水害シンポジウム

千曲川被災者 「国は検証を」

昨年10月に甚大な浸水被害が発生した台風19号による千曲川決壊について住民の視点で検証しようと日本共産党県議団と同市

議団は2月16日、長野市でシンポジウムを開きました。

党県議が「新たに堤防を造っても水害を防げるのか。皆さんの思いに応えるシンポにしたい」とあいさつし、3人のパネリストが報告しました。

大熊孝・新潟大学名誉教授は、国土交通省の資料を基に千曲川の河床変動傾向を分析。「河床が上昇し、流下能力が落ちたことが決壊の原因とみている」と述べました。

嶋津暉之・水源開発問題全国連絡会共同代表は、千曲川決壊

時の浅川ダムについて「流入量、放流量が少なく、治水の役割を果たさなかった」と指摘。洪水が越水しても簡単に決壊しない「耐越水堤防」を建設する必要性を強調しました。

上野鉄男・国土問題研究会理事長は、水害の直接的な原因の一つに高水敷（低水路より一段高い部分の敷地）の土砂堆積があると説明。「河川の上流で森林を整備し、山地からの土砂流出の抑制が重要だ」と語りました。

被災住民からは「大量の土砂がなぜ出たのか国は検証し、決壊しない堤防を造ってほしい」などの要望や意見が多数出されました。

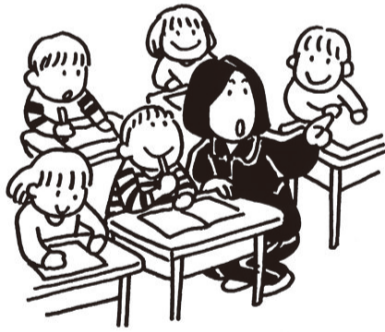


日本共産党県議の一般質問から

教職員の長時間労働の是正を

党県議は、国による「ぎ」などの例を紹介し、1年単位の變形労働時、教員の定数増など間制導入は1年を「繁忙期」と「閑散期」に分けて繁忙期に1日10時間まで勤務が可能とするもので、長時間労働が固定化すると指摘。学校現場の労働実態について「昼食は5分程度で終わらせて打ち合わせ」「朝6時半の出勤で退勤は午後11時過

ぎ」などの例を紹介し、1年単位の變形労働時、教員の定数増など間制導入は1年を「繁忙期」と「閑散期」に分けて繁忙期に1日10時間まで勤務が可能とするもので、長時間労働が固定化すると指摘。学校現場の労働実態について「昼食は5分程度で終わらせて打ち合わせ」「朝6時半の出勤で退勤は午後11時過



新型コロナウイルス対策の充実に向け

正確で迅速な情報を届けることが大事と、党県議はインターネットだけでなく様々なメディアでの情報発信を要望しました。

県内での感染者を一般病院で受け入れる方針に、調整の進め方や医師や看護師など医療スタッフの体制

健康福祉部長は、感染防止対策など医療スタッフが十分に整っていることを前提に調整していること述べ、医療機関からの問い合わせ窓口を信州大学付属病院に開設したと説明しました。

千曲川の堤防決壊 検証もとめる

党県議は、国交省の信濃川水系緊急治水対策プロジェクトに、共産党が提案してきた遊水地や田んぼダムなどが盛り込まれ「歓迎する」と表明。対策をすすめるためには、洪水の最大流量を基礎データとして明らかにすべきだと求めました。

建設部長は、千曲川の最大流量を基礎データとして明らかにすべきだと求めました。

男女平等・ジェンダー 尊重社会に向けて

県の男女共同参画計画の中で、女性幹部の登用などは「まだまだ課題が多い。固定的性別役割分担の意識や無意識の偏見、思い込みが要因」だと答えました。

県民文化部長は、性的嗜好や性自認について必要な知識や対応を職員向けガイドラインにまとめ、市町村などへの研修を予定していると説明しました。



子どもの心身ケアや市町村への支援を

日本共産党長野県議団は3月27日、阿部守一知事に新型コロナウイルス感染拡大の防止と地域経済の落ち込みへの対策を求め

る緊急の申し入れを行いました。

申し入れは11項目で、▷医療・介護現場でのマスク・消毒液不足の改善にむけ国に対応を申し入れ、県として改善の手当てを講じる▷保健所への職員増員など体制の強化▷いっせい休校などによる保護者への負担や影響についての現状把握▷中小企業の影響などに対する市町村の独自の施策への県の財政的支援一などです。

毛利栄子団長は、県下で1カ月近く続くいっせい休校で外で遊べない子どもに精神的負担を与えている現状を報告。「新年度で授業を増やすことになれば、ストレスを増幅させる」と学校再開の際は県として専門家と十分に相談し、子どもの心身のケアなどに配慮するとともに、再開にあたっての目安を示すよう求めました。

小岩副知事は「市町村の教育現場と連携し、対応を取りまとめる」と答えました。



新年度の事業に

日本共産党県議団の提案が実りました

主な事業を紹介します

- ◎これまで市町村が行っていた避難所への災害時備蓄品を、県も備蓄することになりました。
- ◎県の施設も災害時の避難所として利用できるように改善されました。
- ◎千曲川などの防災対策として、流域対策のメニューに遊水地や田んぼダム、河道掘削などが盛り込まれました。
- ◎県営住宅へのユニットバスの設置が予算化されました。
- ◎通信制私立高校と提携するサポート校に通う生徒一人当たり年10万円が支援されます（住民税非課税世帯）。

党県議団 新体制でスタート



- 毛利栄子** 環境文教委員会（環境部、教育委員会）
- 高村京子** 産業観光企業委員会（産業労働部、観光部、企業局）、決算特別委員会
障がい者施策推進協議会委員
- 和田明子** 県民文化健康福祉委員会（県民文化部、健康福祉部）、広報委員
- 両角友成** 農政林務委員会（農政部、林務部）
議会運営委員会
- 山口典久** 危機管理建設委員会・副委員長（危機管理部、建設部）

再生エネルギーで地域経済に貢献

岩手県久慈市を視察

再生エネルギーの地産地消を進めている久慈地域エネルギー株式会社（岩手県久慈市）を視察しました。

同社は、再生エネルギーの発電を行う市内の民間業者と久慈市が出資して設立。発電した電力を市の施設や設備に従来の料金よりも安く供給し、地元の商店や一般家庭への提供もすすめています。契約電力は着実に増加し黒字経営で、収益は子育て支援策など地域の活性化に活用されるとともに、地域経済の循環に貢献しています。

事業規模も無理せず「地域のために」という理念が太くつらぬかれており、長野県でも大いに参考にしたい事業です。

